



教材・支援機器活用実践事例

【実物投影機を活用した書写指導】

子どもについて	学校・学年・学級	小学校 第3学年 通常学級	
	対象の障がい	支援が必要な児童	
	授業形態	通常学級において一斉指導	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○身辺整理をすることが難しく、学習用具が机の周りに散乱していることが多い。また、自分のペースで物事を進めたいという思いが強い。</p> <p>○多くの言葉かけにより、意欲が低くなったり、指示を受け入れにくくなったりする様子が見られる。</p>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>国語科・書写の学習</p> <p>①用具の準備の手順を示す掲示物</p> <p>②実物投影機 (運筆を示す)</p>	<p>【画像】</p> <p>① </p> <p>② </p>
	活用のねらい	<p>①自分で確認しながら、準備を進めることができる。</p> <p>②筆の運び方や動かす速さを実際に見て確認することで、運筆についての理解を深めることができる。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項	<p>①書写の毛筆の学習では、いろいろな用具を机上にそろえなければならない。身辺整理が苦手な本児が必要な物を正しい位置に準備することができるように、準備物のカード、用具の置き方を示した写真を提示した。また、本児の机上に置く位置の手がかりとなるようにテープを貼った。たくさんの用具で煩雑になることが予想されるので、本児の手元ではなく、見えやすい位置に掲示した。</p> <p>②実物投影機を使用し、本児自身が筆を運ぶ視点を意識し、筆をどんな速さで動かすのかを分かりやすく示すことができるようにした。</p>		
子どもの変容や評価	<p>○準備物の掲示を見ながら順番に出していく姿が見られた。学習を進めていくにつれて、机上に置いた用具が煩雑になってきた際には、掲示された写真を見るように言葉かけをすると、自分から置き直して、整理することもあった。</p> <p>○示範を見る際には、黒板に注目していたが、自分で書く際に見たことを意識して運筆をすることは難しかった。今後も繰り返し活用を図り、学習に生かすことができるようにしていきたい。</p>		